早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者(ふりがな)	笹 順惠 (ささ のぶえ)
所属・資格(※学生は課程・	
学年を記載。卒業生・修了生は	人間科学研究科 修士1年
卒業・修了年月も記載)	
発表年月	2025 年 9月
または事業開催年月	
発表学会・大会	第 14 回日本認知症予防学会学術集会 都市センターホテル
または事業名・開催場所	
発表者(※学会発表の場合	
のみ記載、共同発表者の氏	笹 順惠・・倉片・憲治
名も記載すること)	
発表題目(※学会発表の場	
合のみ記載)	歌唱と手指運動の二重課題トレーニングによる認知症予防効果の検証

発表・活動・開催の概要と成果(学会発表の場合、抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)

本研究は、低費用かつ多人数で実施可能な「歌唱と手指運動の二重課題トレーニング」が、高齢者の認知機能および注意機能に与える効果を検証した。対象は要支援・要介護認定を受けていない高齢者とし、介入群と対照群を設定した。介入群には、12週間にわたり週1回30分の集団介入と、毎日15分の自宅課題を実施した。

その結果、介入群では認知機能(MoCA-J)および注意機能(TMT-J A)において有意な改善が認められた。これは、簡便な二重課題トレーニングが高齢者の認知症一次予防に有効であることを示唆する。一方で、より複雑な注意機能を調べる(TMT-J B)では有意な改善は認められなかった。また、介入によって得られた効果は、介入終了後の追跡調査において維持されていなかった。

本研究の成果は、歌唱と手指運動を組み合わせたトレーニングが、簡便かつ有効な認知症予防策となり得ることを明らかにした点にある。また、その効果は一過性であり、持続的な効果を得るためには継続的なトレーニングが不可欠であることも示された。

第 14 回日本認知症予防学会学術集会 「浦上賞」受賞

第 14 回日本認知症予防学会 URL

https://jsdp2025.umin.jp/

浦上賞受賞者一覧 URL

https://jsdp2025.umin.jp/awardee.pdf